



# なきごえ



1990

12

大阪市  
天王寺動物園協会



渡辺 武達



セイシェル共和国は、マダガスカル

ニ国家である。私は1981年6月にはじめてこの国を訪問して以来、セイシェル国民との民間親善交流活動に従事してもう30回目の訪問をしている。

そうしたご縁で今度の花博にも日本の多くの市民の方々のご支援を得てセイシェルは参加することができた。セイシェルはインド洋のダイヤモンドともたえられる素晴らしい自然を保ち、現政権も国土の42パーセントを開発禁止の保護地にしており、完全な熱帯の自然動物園、植物園としての状態が保たれている。

さて、今回の花博に陳列したものはすべて、私たちが現地の専門家と一緒に採集、捕獲したもので植物では「咲くやこの花館」に寄贈させていただいた双子ヤシや白熱帯鳥ラン、ピッチャープラントなど、動物では天王寺動物園に寄贈させていただいた世界最大の陸亀であるゾウガメの子供や、たまたま双子ヤシについて運ばれてきたミドリヤモリなど、それに現地の山に帰した世界最小のカエルなどがあつた。

ここではセイシェルでもほとんどの人が見たことのない、ガーディナーという小さなカエルについて書いておきたい。

カエルは人間にもっとも親しまれている動物のひとつであり、古来さまざまな物語にも出てくる。日本ではとりわけ、松尾芭蕉によって古池や 蛙飛びこむ 水の音

などと詩われ、有名な句として残っているほどである。

ところで、世界には23属、およそ3,500種類のカエルがいるといわれるが、そのうち、これまでセイシェルには3属、5種類の生息が確認されている。

これらの3属のうち、とりわけ貴重だと注目されているのが、この国でもマヘ島とシルエット島にしか生息しない、スーグロッシデイ (Sooglossidae) 属で、トマセット、セイシェル、ガーディナーの3種類に分かれている。

まず第一にその生態が変わっていて、これらのいずれもが、卵を水の中ではなく、標高250~600メートルほどの山中の小川のほとりなどの湿った場所に直接産卵。孵化してもいわゆる「おたまじゃくし」の状態がなく、足のある状態で生まれてくることである。

第二に、この3種類とも体形が極めて小さい。順番としては、ガーディナー、セイシェル、トマセットとなるが、とりわけ、ガーディナーは、通常の場合、オスで体長(鼻先からお尻まで計測する)9ミリを超えることはまずなく、これらのカエルを研究したアメリカ・ミシガン大学の専門家たちもおそらく世界最小であろうと折り紙をつけている。メスの場合はこれより少し大きい、それでも1センチ3ミリを超えることはない。

寿命や交尾などの詳しい生態はまだ分かっていないそうだが、私たちが、花博セイシェル館で展示したものは、コオロギのような可愛い声で鳴いた。通常は森の中のコケや下草の中に生息しているダニやアリ、ハエ、そして小さな昆虫などを食べているという。

私自身、ガーディナーとセイシエルの二種類を飼育した経験があるが、夏期は家蚊やユスリカ、冬期は魚釣り用のアカムシを与えていた。

(日本セイシェル協会理事長) 同志社大学教授)

表紙の写真説明

“セグロジャッカル”(Canis mesomelas)

サバンナのハンターとは思えないほど可愛い面立ちと姿をしています。夫婦仲も永続的で子供を良く育てます。

スカベンジャーと言われるのは心外で新鮮で多彩な動植物を採食します。

(撮影：中川哲男)

なきごえ12月号もくじ

動物と私 ..... 2
“アルダブラゾウガメの入園” ..... 3
ワライカワセミの人工育雛「がんばれ元気！」 ..... 4・5
第3回種保存委員会拡大会議に出席して ..... 6・7
動物園グラフ・動物園日記 ..... 8・9
獣医室から ③ ..... 10
動物園ニュース ..... 11



“アルダブラゾウガメの入園”

本年10月、2頭のアルダブラゾウガメが入園しました。花博の水の館に出展していたセイシェル共和国からのプレゼントです。

現在、爬虫類舎で展示しています。

(撮影：竹田 正人)

「カワセミ」って何？ 昆虫の仲間かな？  
初めて聞く人にとっては、かならず思うことだと思います。事実、「セミ」に似ていることから付けられたのですから、そう思いやんでも仕方がないかもしれません。本当は鳥の仲間なんですよ。

日本では、普通に見られる「カワセミ」で、小川や池などに飛んで来るのを見かけます。「キキキキキキ」と鳴きながら飛びます。しかし、なかなか見付けにくいのもこの鳥の特徴で、水面から5cm～10cmぐらいのところを弾丸の様にすごいスピードで直線的に飛んで行きます。色彩もすばらしく背面はメタリックブルーに見えたりエメラルドグリーンに



見えたりで、腹面はオレンジ色です。翡翠(ヒスイ)と書くだけあってまるで生きた宝石の様です。主食は小魚ですが、やはりこの鳥も他の野生動物と同様住む所に困っているようです。今では小魚のすむ池や川がめっきり少なくなりましたから……悲しいことです。

それでは本題にはいっていきましょう。

ワライカワセミって初めて聞いただけですぐにわかりそうな名前でしょ？その名の通り「人の笑い声によく似た声でさえざるカワセミ」なんです。カタカナでなき声を書いてみると「コココカカカココココココ」でしょうか、これを出来るだけ速く大きな声で言ってみましょう。その瞬間からあなたはワライカワセミの上手な物まね人間です。でもあまり、ところかまわず「まね」ない様……。いいですね。

さて、ワライカワセミはオーストラリア東部、南西部、タスマニアの一部に分布しており森林、果樹園、公園などに生息しています。エサは生きているもの、口に入るものなら何でもと言う感じでネズミ、ヘビ、トカゲ、昆虫、小魚、小鳥とあらゆるものを食べます。そのためか、飼育下では意外に飼育しやすい鳥と言えるでしょう。体格もすばらしく、日本の「カワセミ」はスズメぐらいですが、ワライカワセミはハトぐらいの大ききでカワセミの仲間としては最大なんです。

当園では、1979年にオーストラリアのメルボルン市との姉妹都市提携記念の親善動物として2羽のワライカワセミが来園しました。

ワライカワセミの雌雄の判別とペアリングは非常にむづかしく、現在のペアが出来るのに約3年、それから繁殖するのにさらに4年もかかりました。

一度良いペアが出来ると、あとは順調に繁殖へと進みます。

今までに成功しているのは、1986年に自然繁殖で1羽、1987年に自然繁殖で2羽、1988年に自然繁殖で3羽、人工ふ化育雛で2羽の繁殖をしています。

しかし、1989年には2羽ふ化したのですが共に途中で死亡してしまい、成育数は0羽でした。ですから、今年1990年は多数の繁殖を目的として、人工繁殖と自然繁殖を併用しました。

飼育している者にとって、繁殖出来なかったことはほんとに淋しいかぎりです。それだけに今年の繁殖には力が入りましたし、気をつかったのは事実です。この繁殖作戦で疲れた時など元気づけられるのはワライカワセミの、人間の笑い声に似た鳴き声と愛嬌たっぷりの仕草や顔つきだった様に思います。

今年始めてのふ化が見られたのは、2月28日に産卵した卵でした。

親鳥が毎日毎日、雌と雄が交替で抱卵していました。私が掃除に行くと雄が大変ないきおいで攻撃してきました。長ぐつなどひとつたまりもなく穴があいてしまうぐらいです。もちろん眼につっ込んできそうな時もあり、「ヒャッ」としたこともありましたが、3月24日には無事にふ化し、親鳥が休憩している間に雛を取り、人工育雛に入りました。

何としてもがんばって大きくなって欲しいという思いから、個体名を「元気」と名付けました。体重が21グラム、1円玉が21枚分ということになります。一度1円玉を21枚セロテープでくっつけてみれば、重さがよくわかると思います。

全長が約7cmで赤はだか、目も開いていません。ところでこういう未熟な状態で生れ、親の保護を必要とする状態を晩成性と言います。それに対して生まれてすぐに歩き出し、目も見えエサも自分でとれる状態のものを早成性と言います。ちなみにふ化日数は24日でした。

餌となるものは、特別に用意した冷凍のハツカネズミの赤ちゃんです。これを私達は、ピンクマウスと呼んでいます。もちろん冷凍されていますから解凍した後、雛に与えます。このピンクマウスは約2.5cm程ですがこれをいきなり丸飲みにしてしまいました。それはもうすさまじいぐらいのいきおいで、私も目を白黒させられました。

ピンクマウスは約3グラム、雛の7分の1の重さです。人間では考えられない食事量ですよ。私で体重73キログラムですから約10キログラムの食事……と言うことになります。すごい大食漢だ！



そんな毎日が9日もすると、体重も109グラムになり羽軸も始まってきました。そして何より眼のあたりに亀裂がはいり、いよいよ開眼が始まってきました。まだ物がはっきりと見えることはありませんが、ほんの少し明暗がわかる……程度でしょうか？成長はすこぶる速く、毎日見ている私でさえ、朝来て見ると「ワッ大きくなって」と思うことがよくありました。がんばってもっと大きくなってくれよ、がんばれ元気！！

ここで私から読者の皆さんに質問を1つ。「ペリット」を知ってますか？知っている人はなあ～んだ簡単、知らない人は「何だろう」と思われるでしょう。正解は、エサの中で消化しきれなかったものをまとめて吐き出した物なんです。そうです、このワライカワセミはペリットを吐き出すんです。胃の中で消化しきれなかった骨、羽軸、毛などは腸管へ送り出さずに、口から吐き出すんです。その方がとっさりばやいのかもしれません。体の成長のためにすでに不要となった無駄な物を、素早く体外に出すというシステムはうまくしたものだと思います。こんなことからもう毎日が餌やりとの格闘です。時間があれば餌を与えに行きました。それこそ親鳥の様に……。それにしても良く食べるんです。まるで食べる為だけに生まれてきたみたい。生きた掃除機か郵便ポスト……!!?

生後10日を過ぎる頃からハツカネズミの成体を食べる様になりました。眼もだいぶ開いて明暗はもちろんのこと、かなりはっきりと物を見れる様になってきました。羽軸もほぼほぼえそろって来ました。しかし、成羽になっていないためパッとみると何の動物かわからないぐらいです。はっきり言ってグロテスクです。ましてネズミを一匹、いとも簡単に丸飲

みですから「ギョッ」とさせられても仕方のないこと。また羽軸が全身をおおっているのでハリネズミと言われてもこれまた仕方のないことだと思います。まるで架空の生き物みたいなんです。

やっとうらしくなってきたと思うのは生後約1ヶ月ぐらいです。目もぱっちり開いて羽軸もほとんどが羽毛にかわっていますし、何よりグロテスクからかわいいという表現があうようになりました。しかしこれまでに少々心配させられたのは生後17日頃から食欲がなくなってきたことです。

今まで「食べるためだけに生まれてきた」ようなこの「元気」があまり食べなくなっただけから大変なこと！なぜだろうと考えたあげく、わかりました。

「元気」は巣立ちが近づいてきたため、自分の体重増加をおさえはじめたんです。いきなり体重が300グラムまで増えたのに、その後この体重を維持し、安定し続けているのです。体調をくずすことなく飛ぶための準備に入っているのです。まったくもって素晴らしいことです。誰に教えてもらったわけでもないのに本能的なものでしょうか？人間で言うなら「理想的なダイエット」だと思います。

生後一ヶ月を越える頃より「はばたき練習」も併行して行なわれ、35日をすぎて巣立ちをしました。それはもう元気一杯、名前の通りに立派にそして何より元気にそだってとてうれしく感じました。

しばらくしてから一般公開となり動物園の人気物になりました。鳴き声もひときわ大きい声で、自然で育てたものよりよく鳴きました。これでどこから見ても「ワライカワセミ」そのものです。

しかし、ここで私にとって一大事が起きました。このワライカワセミの「元気」が、中国は上海市との親善動物として、上海動物園へ贈られることになりました。

私は一生懸命育てたいとおしきから少々ショックを受けました。本人の「元気」は何のことやら、いつもと変らぬ顔ですが……。

おしせまった輸送の当日、午前7時30分に輸送箱に収容し一路大阪空港へ。私はここで「元気」とお別れ。「元気」とは私が上海市へ行かない限り、二度と逢うことがないのです。つらいことですが仕方のないことです。今でもあの「元気」の愛敬たっぷりの顔と、大声だけは忘れられません。

中国でもしっかり食べて子孫を増やすんだぞ！！  
元気で居てくれよ！がんばれ「元気」！！

来年度も第2の「元気」、第3の「元気」を育てるように、また努力するつもりです。皆さんの応援をよろしく願います。

(飼育課：西田 俊 広)



# 第3回種保存委員会拡大会議に出席して なきごえ26(12),1990

10月4、5日と名古屋市東山動物園において日本動物園水族館協会主催の第3回の種保存委員会が開催されました。過去2回とも東京で開催されましたが、できるだけ多くの人達にこの種保存の目的を理解してもらい、その活動の浸透を図るため、今回から各地で持回り開催されることになりました。さらにこの種の保存問題は、全国の動物園、水族館で勤務する職員にも関心を持ってもらうことが必要であると、従来、種保存委員と繁殖計画を策定する種別調整者、類別調整者に限られていた枠を取り払い、各園からの職員参加を募りました。その結果、今回は米国からの2名の専門家や環境庁、WWF等の関係者を含め参加者120名を超えるその名のとおり大きく開かれた会議になりました。私もシシオザルの繁殖計画調整者としてシシオザルのこれからの繁殖計画を報告するとともに、併せて5月に開催された米国でのシシオザル国際シンポジウムについても報告しました。まだ耳慣れない言葉である種保存とは一体何なのか、この会議の経過と共に今回の概要をご紹介します。

## \*種保存委員会とは

野生で絶滅に瀕している希少動物を飼育下で何とか増殖させていくことは、いまや全世界の動物園、水族館の大きな課題となっています。日本動物園水族館協会ではかねてからこの希少動物の飼育実態調査、増殖に関する資料の収集、飼育下の希少動物の血統登録(注1)を行ってまいりましたが、これら一連の活動を組織化し、さらに各動物園、水族館への指導、勧告を強化する目的で、1988年2月に種保存委員会を発足させました。これに先立つ2年前から20種の希少動物については国内血統登録を開始してまいりましたが、これを一層拡充し、将来の繁殖計画をも策定していこうということで、1988年10月に第1回の会議がもたれ、[表]に示した33種(ニホンコウノトリを除き、アジアアロワナを加える)を繁殖推進種としました。この33種を7つの類別(有袋、霊長、食肉、有蹄、海獣、鳥、魚)に区分し、各類別ごとに繁殖計画の優先順位を決めました。その中でもコアラ、シシオザル、アジアアロワナは緊急に繁殖計画を立てる必要があることから最優先種に、ゴリラ、アムールトラ、クロサイ、バンドウイルカ、タンチョウを第1位の優先種に指定し、繁殖計画の推進が開始されました。

第2回の会議では、コウノトリ、オオサンショウウオが加えられ、両生類を加えた8類別35種が繁殖計画推進種になりました。オオサンショウウオとアジアアロワナを除く33種は全て国内血統登録がされ、それぞれに血統登録担当者が選任されています。第1、2回目の会議とも優先種の飼育状況と繁殖計画の報告が中心となりましたが、それ以外にも国際的な動物の登録機構であるISISとの連携や、スペインから輸入されたゴリラ問題、アラスカのラッコの保護協力など、1日ではとても討議できないほどの議題が常に山積していました。

国内血統登録動物と担当園

	動物名	園名
1	コアラ	多摩動物公園
2	シシオザル	大阪市天王寺動物園
3	オランウータン	多摩動物公園
4	チンパンジー	多摩動物公園
5	ゴリラ	日本モンキーセンター
6	コンカラ-テナガザル	宝塚動物園
7	ホッキョクグマ	旭川市旭山動物園
8	レッサーパンダ	静岡市立日本平動物園
9	アムールトラ(亜種)	神戸市立王子動物園
10	チーター	アドベンチャーワールド
11	ラッコ	鳥羽水族館
12	オタリ	油壺マリンパーク
13	カリフォルニアアシカ	油壺マリンパーク
14	ゴマフアザラシ	江ノ島水族館
15	ゼニガタアザラシ	釧路市動物園
16	バンドウイルカ	鴨川シーワールド
17	アジアゾウ	上野動物園
18	インドサイ	仙台市八木山動物公園
19	シロサイ	仙台市八木山動物公園
20	クロサイ	広島市安佐動物公園
21	マレーバク	福岡市動物園
22	グレビーシマウマ	京都市動物園
23	ナベヅル	多摩動物公園
24	マナヅル	埼玉県こども動物自然公園
25	コンドル	徳島市立動物園
26	オオワシ	札幌市円山動物園
27	オジロワシ	札幌市円山動物園
28	シマフクロウ	釧路市動物園
29	ワシミミズク	広島市安佐動物公園
30	カムリシロムク	横浜市野毛山動物園
31	ニホンコウノトリ	多摩動物公園
*32	ニホンカモシカ	名古屋市東山動物園
*33	タンチョウ	上野動物園

\*は国際血統登録も担当

## \*第3回種保存委員会では

今回の会議では前述したとおり参加者が120名を越え、過去の会議に比べても4倍近い参加人数と、本当に大きな会議になりました。日本動物園水族館協会主催の会議では総会、動物園技術者研究会とならぶ、あるいは関心の高い問題ということで将来的には一番大きな会議になる可能性があるのではないのでしょうか。日程も1日ではとても消化しきれないことから、2日間にわたる日程に変更になりました。多くの報告と討議の必要性からでしょうか、しかし先に記した優先種8種に加え次優先種6種(オランウータン、ホッキョクグマ、マレーバク、ゼニガタアザラシ、コンドル、オオサンショウウオ)の計14種の飼育状況報告、繁殖計画の提案に随分時間が費やされたため、参加者からの質疑応答に時間が充分取れなかったのは少し残念でした。

初日はこの14種の全体会議で1日のスケジュールがほぼ終了しました。各優先種ともいろいろ問題を抱えており、将来期待に満ちあふれたものもあれば不安材料ばかりのものなど様々です。例えばコアラでは現在7園で64頭も飼育されており繁殖もすでに23頭とすこぶる順調ですが、亜種の区分の問題、こ

なきごえ26(12),1990

れからの繁殖計画、餌のユーカリの確保などいくつかの検討課題が提示されました。

アジアアロワナは水族館での繁殖例がないだけに、今後飼育下でいかに繁殖させるか、またそれに先立つ雌雄の鑑別方法、近似種との判別方法など確立すべき問題が残されています。

将来的な計画が立てにくいのがローランドゴリラです。その評価額があまりにも高いこともあるのですが、簡単に交換とか貸し出しなどができず、その原因として常にオーナーシップ、つまり各動物園の所有権の問題が指摘されてきました。ゴリラはペアだけで飼育していてもなかなか繁殖しない動物で、群れで飼育するのが最良と言われていますが、日本で群れ飼育しているのは僅かに1園のみ、19園はペアだけで飼育しているのは1頭だけという理想とかけはなれた状態にあります。日本でのゴリラの



講演中のシール博士

飼育が始まって30年以上を経過するのに、この間繁殖したゴリラはたったの6頭と、この数字がまさに日本の現状を表しています。群れ飼育するためにどこかに集めるとしても、あるいは1頭飼育の動物園同士で協力してペアを作るにしても、また北米で成功を収めているペアの組替えをするにしても、ゴリラの場合は先述のオーナーシップが問題となって、つまり飼育の担当者が理解を示しても、格段に高い評価額のために、動物園の管理者、オーナーの了解を取ることがまず困難であるというものです。しかしこの状態が続けば、日本の動物園でゴリラが見られなくなるのは時間の問題と言わざるを得ません。そのためにもオーナーシップを乗り越えて、早急にゴリラの大繁殖作戦を立ててほしいものです。

初日の締め括りとして名古屋港水族館の内田館長から国際動物園長連盟の総会報告がありました。今国際的にはどのような組織がどのように連携して動物の保護、繁殖に取り組んでいるか、また動物園の果たす役割とは何かなど、国際的な種保存の動きについて報告がありました。経済大国日本はあらゆる分野において国際的な面での貢献度が低いことは常々言われていることですが、この種保存の問題でも立ち遅れていると指摘されました。悔しい限りですが、私自身、この報告には非常に刺激を受けました。

2日目は6つの分科会に分かれて類別調整会議が開かれ、その後、それらを取りまとめて類別調整者から各類別の策定した計画が報告されました。これらの内容は誌面の都合上省かせていただきます。

今回、CBSG(飼育下繁殖専門家集団)会長のシール博士がデトロイト動物園の川田健飼育課長と共に来日され、この会議で特別講演をしていただきました。種の保存のためにCBSGではどのような活動をしているか、種の維持のためにどのくらい

の個体数が必要か、またバイオテクノロジーを用いて、例えば人工授精、発情の同期化、受精卵移植、多排卵、試験管内受精、キメラ形成、クローニング、性選択などにより絶滅の危機に瀕する希少動物を最新の技術で種の増殖を図っていくかなど、すばらしい講義を拝聴できました。日本の動物園はこの分野でも立ち遅れていることを、残念ながら認めないわけにはいきません。

## \*シシオザルの繁殖計画

シシオザルは2年半にわたって海外の動物園と交渉を重ねてきましたが、やっとその苦勞に報いてくれるかのように、ワシントン、セントルイスの両動物園から日本の繁殖計画への協力として3頭のシシオザルが贈られてきたこと、さらに7頭の提供申し出があるなどうれしいニュースをご紹介し(注2)、これらを核とした繁殖計画を策定してその提案を行いました。過去の会議で海外からの導入を盛んに訴えてきましたが、2年経過してもなかなか実現せず、計画倒れになるのではと、私自身焦りを感じただけに、繁殖計画実現へ1歩踏み出したことに安堵しました。今後、国際繁殖協力による導入を一層積極的に進め、5年間で飼育動物園数を現在の8から15園に、飼育頭数を30から70頭にと目標値も提出することが出来ました。私自身、いつまでシシオザルの繁殖計画調整者を続けられるか分かりませんが、早く目標に到達してバトンタッチしたいものです。

## 第三回種保存委員会拡大



シシオザル繁殖計画を報告する筆者

## \*種保存委員会への期待

来年は神戸、再来年は横浜でこの会議開催が予定されており、動物園の大きな使命ということですがその存在意義は高まることでしょうか。その期待に応えるためにも、まず繁殖推進種の基礎となる国内血統登録種をふやすべきではないでしょうか。日本では現在33種ですが、国際的にはもう100種を越える動物で登録が行われており、早急に対策を講じるべきです。次には国際協力をもっと押し進めるべきで、日本だけでいくら繁殖計画を策定しても、国際的な連携なしでは効果を生み出すことは不可能に近いでしょう。

種保存委員会が発足してまだ2年ですが、各地の動物園が寄せる期待は大変大きいものがあります。これから1年1年、地道に積み上げていく努力が、日本の動物園、水族館の大きな柱となり、近い将来、日本の種保存委員会SSCJとして国際的な評価を得ることに期待したいものです。

(飼育課:宮下 実)

注1「なきごえ」1989年6月号『希少動物の血統登録とは』  
注2「なきごえ」1990年9月号『第3回シシオザル国際シンポジウムに出席して』をご参照ください。



# 動物園グラフ

## “血統登録をされている動物たち”

1986年から日本でも希少動物を中心として国内血統登録が本格的に始まりました。当初の対象は20種ほどでしたが、現在では33種の動物が登録されています。この血統管理は将来の繁殖計画を索定していくうえで、重要な役割を果たすことでしょう。今回は天王寺動物園で国内血統登録を受けている主な動物をご紹介します。

(撮影:宮下 実)

[国内血統登録の一覧は6~7ページ参照]  
( )内は天王寺動物園での飼育頭数



ローランドゴリラ  
(日本での飼育動物園数 25園)  
飼育頭数 50頭 (2頭)



オランウータン  
(日本での飼育動物園数 27園)  
飼育頭数 73頭 (3頭)

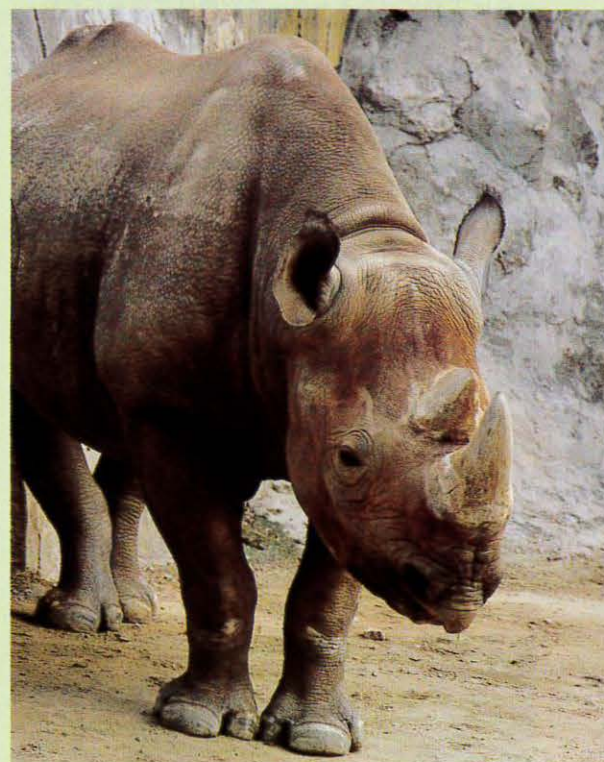


シシオザル  
(日本での飼育動物園数 8園)  
飼育頭数 30頭 (8頭)

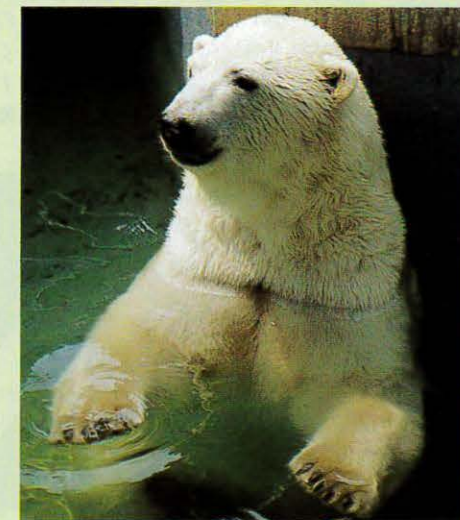
## 9・10月の動物園日記

- 9/28. タヌキ1頭、カルガモ1羽を保護しました。
- 9/29. キジバト、ヒヨドリを各1羽保護しました。台風20号接近のため警戒体制に入りました。
- 9/30. ササゴイ、キジバトを各1羽保護しました。
- 10/1. 花博に出展していたセイシェル共和国とシンガポール(ジュロンバードパーク)から展示動物が寄贈されました。
- 10/2. 爬虫類舎でセイシェル共和国から寄贈されたアルダブラゾウガメ2頭とミドリヤモリ一種3頭の展示を始めました。
- 10/3. 埼玉県こども動物自然公園の飼育係の方

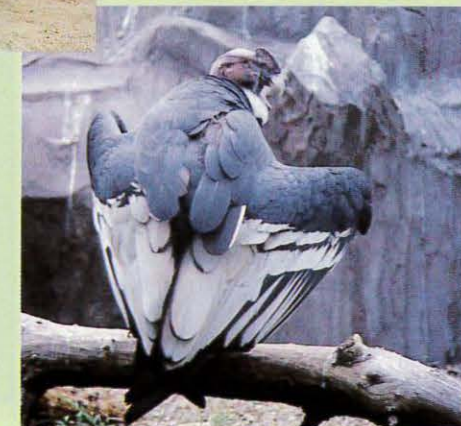
- 名が来園見学されました。
- 10/4. 小鳥舎でジュロン・バードパークから寄贈された鳥のうちガビチョウ4羽とアカハラシキチョウ2羽の展示を始めました。
- 10/6. キジバト、コガモを各1羽保護しました。
- 10/9. アジサシ、ゴイサギを各1羽保護しました。
- 10/10. 血統更新のため、鳥の楽園で今年繁殖したオシドリ6羽を姫路市立動物園と交換しました。
- 10/11. 鳥の楽園で、昨日入園したオシドリ6羽の展示を始めました。
- 10/12. 白浜アドベンチャーワールドの飼育課長他1名が来園見学されました。



クロサイ  
(日本での飼育動物園数 4園)  
飼育頭数 13頭 (2頭)



ホッキョクグマ  
(日本での飼育動物園数 30園)  
飼育頭数 54頭 (2頭)



コンドル  
(日本での飼育動物園数 22園)  
飼育頭数 47羽 (2羽)

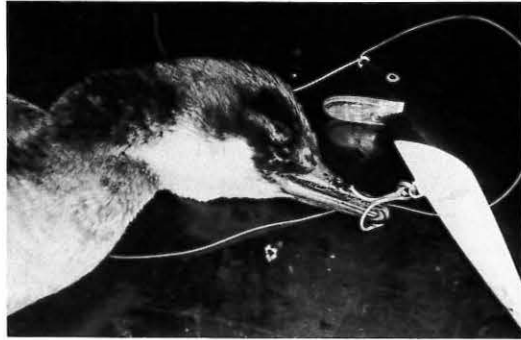
- 10/13. ブタオザルの赤ちゃんが1頭生まれました。
- 10/14. オオサマペンギンとイワトビペンギンを屋内展示室から屋外放飼場に移動させました。
- 10/16. モズを1羽保護しました。京都市動物園の園長、飼育課長が来園見学されました。
- 10/17. 9/21保護したタヌキや昨日保護したモズなど保護動物を自然復帰させました。北海道ののぼりべつクマ牧場の飼育係の方1名が来園見学されました。
- 10/18. トラツグミを1羽保護しました。
- 10/19. 近畿地区動物園獣医師の勉強会を当園で開催しました。

- 10/21. 第8次大阪市動物技術交流視察団として中山飼育課長他3名が上海に向け出発しました。秋の動物と花のフェスティバル'90が始まりました。
- 10/22. コノハズクとアオバズクを各1羽保護しました。
- 10/23. ヤマシギを1羽保護しました。
- 10/24. ヤマシギを1羽保護しました。本日から屋外放飼場でコアラの展示を始めた。
- 10/25. ツツドリを1羽保護しました。
- 10/26. 市川市動植物園の飼育係の方1名が来園見学されました。



§ 擬似針は鳥も釣れる!?

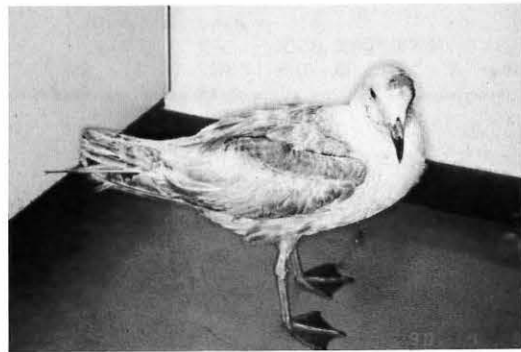
長居植物園内の池で、奇妙な物をクチバシの上に付けて泳いでいる水鳥が発見されました。よくみると、前後を赤と白で塗り分けられた擬似針です。この鳥は運よく、植物園を見学に来たお客に保護され、当園に届けられました。



この事例は、昨年1月のことでしたが、私の記憶に鮮明に残っています。この水鳥はミコアイサのメスで、擬似釣はこの水鳥の右側の鼻の孔にさきっていました。針先にモドリがついているため、針はずれなかったのでしょう。鼻孔からの出血がいたいたしく感じられました。保護受付後すぐ、動物病院にて摘出手術を実施しました。全身麻酔を施し、出血もさほどなく擬似針を摘出することができ、ひとまず安心しました。後治療を数日続けると、みるまに元気を取り戻しました。もし保護されていなかったら、衰弱死していたことでしょうか。この鳥の場合、植物園内でこの針にひっかかったのかどうかは分かりませんが、園内では魚釣りが禁止されているにもかかわらず、それを無視する人が絶えないそうです。

§ 融けた針釣

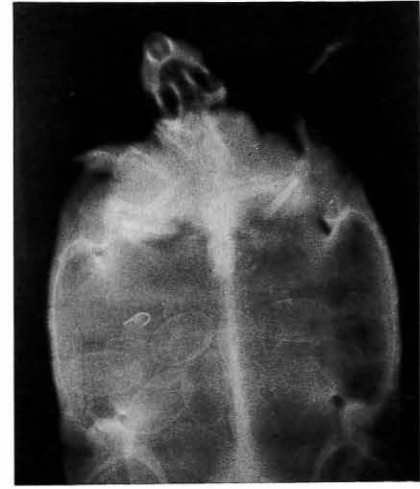
口からテグスが出た状態で1羽のセグロカモメを今年7月に保護しました。



テグスには鉛のおもりも付いており、また、引っばってもそのテグスを取りはずすことができないこと

から、恐らく釣針を誤って飲みこんでいるのだろうことは予想がつきました。その確証を得るために、まずレントゲン写真を撮りました。やっぱりモドリの付いた釣針が明瞭に写っていました。やせており、元気もない状態ですから、すぐ摘出手術をするのは危険過ぎます。そこで、この場合は口から出ているテグス部分のみを切断し、1週間の体力回復期間をおいたうえで、手術にのぞみました。1週間後、手術前に撮ったレントゲン写真から、まだ釣針が胃の中に残っているのが、分かりましたが、形が少し変です。胃の切開により摘出したその釣針は、先端のモドリを含む湾曲部とテグスが結ばれている釣針上部が消失し、1.5 cmほどの直線部分だけが残っていたのでした。消失した部分は、胃液によって融かされたのでしょうか!?

一方、胃の中の釣針が完全に消失した症例もありました。動物はカメで、これも今年7月に当園に持ちこまれたものです。魚釣りをしているかかってしまったらしく、釣針を取ってやってくれと持ち込まれました。レントゲン写真にも明瞭に釣針が写し出されていました。甲らをもつカメのこと、簡単に開腹手術などできません。こうなると胃カメラを用いて、取り出す以外に方法はありません。幸い、開業獣医師の方が協力を申し出て下さり、保護



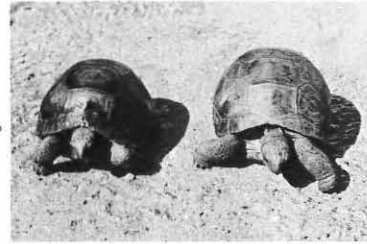
して8日目に、その先生の病院まで出むきました。胃カメラを用いる前に、レントゲン写真を撮りました。ところが、その写真の中に釣針が見られません。その確証を得るために、胃カメラで胃の中をのぞきました。確かにありません。体外に排泄されたことも考えられますが、胃内で融かされてしまったことも十分考えられるでしょう。ここに野生動物の生命力の強さの一片をみる思いですが、間違っても釣針を飲みこんだ動物たちのほとんどが、やせこけて、死にそうな状態で動物園に持ち込まれてくることを忘れてはなりません。動物たちは、明らかに被害者なのです。

(飼育課：森本 委利)

§ 花博の出展国から動物のプレゼント

花博の閉幕に伴い、展示されていた動物の一部が、当園に寄贈されました。

セイシェル共和国からは、3才になるアルダブラゾウガメ2頭とミドリヤモリ3頭が10月1日、当園に贈られました。またシンガポールのジュロンバードパークからは、



オシドリ、キンケイ、サンジャク、キュウカンチョウ、ガビチョウ、アカハラシキチョウ計6種14羽の鳥が同じ日に贈呈

されました。

§ 上海動物園にアシカとワライカワセミをプレゼント

大阪市では、昭和49年4月18日に上海市と友好都市提携を締結して以来、同年から動物交流を行ってきました。今年は第8次動物交流として、上海動物園へカリフォルニアアシカ(1ペア)、ワライカワセミ(4羽)を、10月21日に贈りました。ワライカワセミの贈呈は、初めてのことで、アシカは今回で4回目となります。



これらの動物の輸送と技術交流の目的で中山飼育課長、榊原獣医師、吉田係員、岩佐通訳の4名が大阪市動物技術交流視察団として9月21日から9日の日程で中国に出張しました。

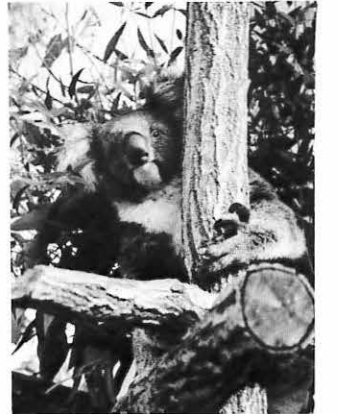
現在の飼育動物数

(平成2年10月31日現在)

哺乳類	13目	96種	398点
鳥	20目	182種	738点
爬虫類	3目	32種	66点
合計	36目	310種	1202点

§ コアラの屋外展示始まる。

秋も深まり、最高気温が25℃を下回る日が続くようになってきたので、10月24日から、コアラを屋外放飼場で展示し始めました。コアラの健康状態を見ながら2〜3頭ずつ順番に展示しています。なお、雨、風の強い日や気温の低い日には、健康管理上中止となり、屋内展示のみとなります。



§ 秋の動物と花のフェスティバル'90開催

昭和20年から天王寺動物園を会場として開催してきました「動物園まつり」は、「動物と花のフェスティバル」という名称に改めました。これは、本年動物園と公園が一体化したことにより、会場を天王寺公園まで広げ、多彩な催しをすることが目的です。今回は10月21日から11月11日まで行いました。

主な内容は、「動物の赤ちゃん写真展」、「動物イラストコンクール」のほか、ステージでは、日祝日のみ、飼育係員による「こんにちわ、どうぶつくん」ボランティアによる紙芝居や動物クイズを行いました。公園では「花のスタンプリナー」や水上ステージで「フラワーコンサート」などが開催しました。動物と植物の無料相談も各々、動物園と公園で、日祝日のみ行いました。

● お知らせ

動物ウォッチング  
12月16日(日)動物園裏側ウォッチング  
時間：午後1時〜2時  
場所：レクチャールームから出発

● テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレフォンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。

電話番号 771-9999

休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間とは？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

### むしくらしかいかた

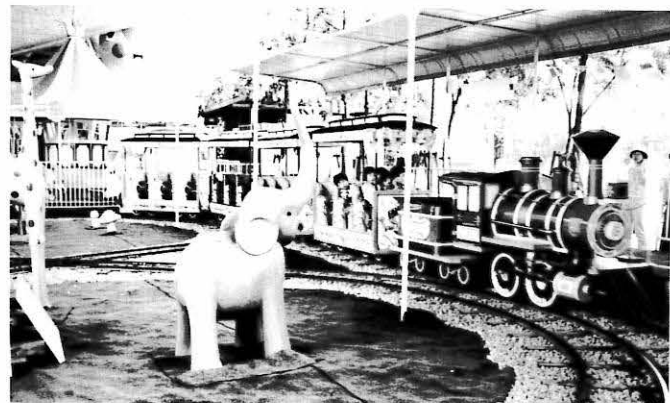
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

## たのしいのりものが待っています。



1人1回  
100円  
(1才まで無料)

団体割引  
(30人以上)  
……1割引

久竹娛樂株式会社  
TEL (06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

## オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

# 歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入  
B6判・270頁  
3000円・千不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究家)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い求めになれません。直接当会へお申し込みください。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

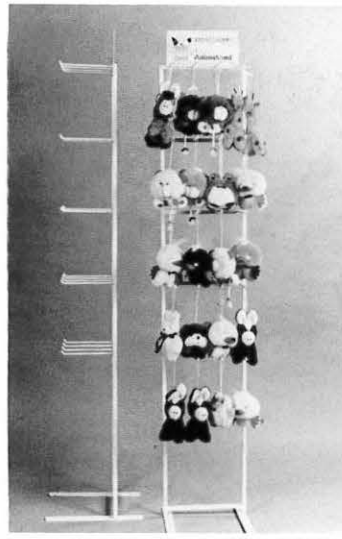


コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー  
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

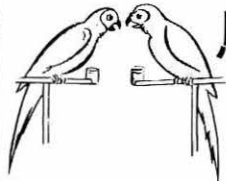


## 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

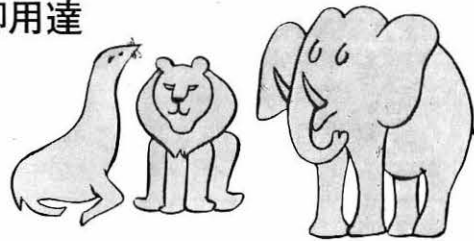
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL : (06) 704-8580  
FAX : (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

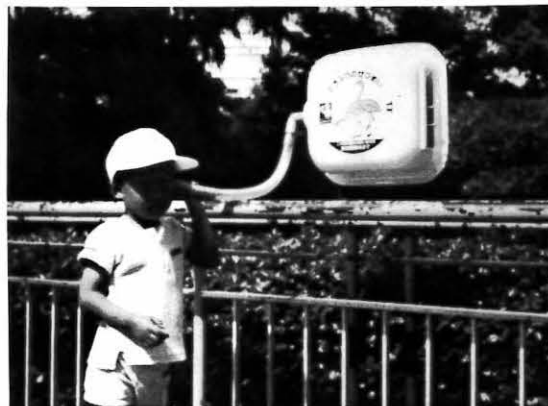


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

## 動物園内での お食事、ご休憩は

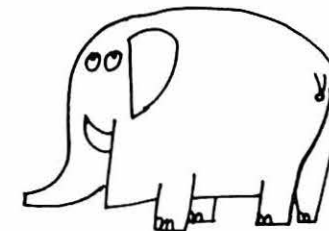
大阪市天王寺動物園内

## 中央売店

☎ (06) 771-0973



## 天王寺動物園内



## 南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 (06) 771-7110番

## 園内でのお写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して  
おりますのでご説明  
に伺いました際は、  
よろしくお願ひ致し  
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。  
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社  
TEL 06-856-7444



唯ちゃんも、  
とつてもゼリーも、  
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー  
**とつてもゼリー**



野生動物をみんなで守ろう

# WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF 国際保護動物ぬいぐるみコーナー”があります。  
このぬいぐるみにはパンダマークがついており売上げの一部はWWFJ（世界自然保護基金日本委員会）に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー



お申込み、お問合わせは——  
社団法人 大阪市天王寺動物園協会  
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア 商事部  
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。  
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WIDE FUND FOR NATURE)とは？  
世界自然保護基金。世界中の危機に瀕している動物植物と、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1990年12月10日発行 (毎月10日発行) 第26巻 第12号 (通巻304号)

編集 / 大阪市天王寺動物園  
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎  
印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 大阪 (06) 771-0201  
振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員 (伊東重朗 / 大西史朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 奥上 昇 / 大谷直樹 / 宮下 実 / 長瀬健二郎)  
榊原安昭 / 森本委利 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 土谷正道)